



# おーい！くじらぐも

Vol.6 2021年（令和3年）12月号

発行人：社会福祉法人健翔会 くじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL：048-580-3634 FAX：048-554-8814

MAIL：kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

今年もお世話になりました。くじらぐもは、来年もみなさんに寄り添い一歩ずつ一歩ずつ進んでいきます。



もう一度、学び直したいという相談があり編入先の学校を探し紹介しました。



短期入所など急なお願いも対応可能な事業所とも繋がっています。



Zの方式でしょうか。お店側の陳列でどれも手に取りたくなってしまいます。

## 『くじらぐもとして働き感じたこと・得たもの』

7月から開設になったくじらぐもですが、現場の仕事とは違い、ご利用者・ご家族の黒子となり、福祉サービスが安心して利用できるサポートやご家族の心配事などに、できる限り寄り添い対応してきました。自分の知識の浅い分野の相談には、市障害者基幹センターや他事業所の相談支援専門員を巻き込んで、解決策を考えました。また、相談者により多くの情報を提供できるように、地域に出向き話を聞いてきました。

この5ヶ月で改めてわかったこと。

①良いサービス（福祉サービスではありません）があっても、それを情報発信しないと上手に活用できないこと。

例えば、お金の管理（散財など）がどうしてもうまくいかない人に、第三者（社協）がそのお手伝いをする「安心サポートねっと」を利用して、必要な時に必要な分だけのお金を用意してもらい、散財を抑え将来への蓄えを備えるなどです。

②人は人に支えられて生きている。

例えば、通勤でどうしても大きな道路を渡って横断しなければならない。地域の方に相談してスクールガイドを紹介してもらい、安全に横断できるように協力してもらえたなどです。

普段の生活で見ている風景であっても、くじらぐもで働くことで、そのことがニーズになることを改めて知り、また多くの人と関わることでいろいろなことを知ることができた貴重な半年間でした。来年も「傾聴」と「寄り添う気持ち」を忘れず、一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。

## <12月のトピックス>

くじらぐもが担当している方で、パンフレットが欲しくて家を飛び出してしまおう衝動が抑えられない児童がいます。保護者から相談があった時には、私の経験から「きっとこういうパターンだろう。あの人と行動が似ている。」と感じアドバイスしました。その後、児童と話をした際、特に映画館のパンフレットが好きだということがわかりました。休日に映画館に足を踏み入れたときに、上映中の映画のパンフレットがキレイに陳列してありました。その陳列方法も、洋画と邦画が交互に、また途中にはアニメのパンフレットを置くなど、店側も工夫していることがわかりました。単純に衝動だけでなく、見たくなる欲しくなると思わせてしまう店側の戦略や魅力もあるのではないかと感じました。福祉の経験値は役に立つことでもあります。ときにその固定観念が勝り、その方の本質的なことを見逃してしまうことがあります。今回、その児童の本当の思いと、その場所には何かしらのヒントや答えがあるとわかりました。